

「日当直、こんな時どないするねん～あなたの疑問こたえませ！！」

生化学検査

◎三栖 徹也¹⁾
久留米大学病院¹⁾

日当直業務において、皆さんが不安に思うデータを提示いたします。特にアンモニアのような項目において、パニック値に該当するようなデータ出現時は「急いで報告する」か「間違いない値かどうか確認のための再検」かは、悩ましいと思います。

以下は、緊急検査室に気送管にて提出された検体の測定データです。
検体の搬送条件に特におかしなところはありませんでした。

AST	22 U/L	総ビリルビン	0.9 mg/dL
ALT	30 U/L	直接ビリルビン	0.1 mg/dL
LD(IFCC)	205 U/L	Na	141 mmol/L
ALP(IFCC)	90 U/L	K	4.2 mmol/L
γGT	23 U/L	Cl	108 mmol/L
ChE	312 U/L	CRP	0.1 mg/dL
総蛋白	6.6 g/dL	カルシウム	9.3 mg/dL
アルブミン	4.1 g/dL	無機リン	4.0 mg/dL
尿素窒素	8 mg/dL	アミラーゼ	34 U/L
クレアチニン	0.65 mg/dL	血糖	103 mg/dL
尿酸	4.6 mg/dL	アンモニア	394 μg/dL

このような検査データをみたら、あなたはまずどう動きますか？なにをしますか？

当院では日当直は2名体制にて行っています。
今回は実際の状況を追体験しながら考えてもらえたらと思います。

久留米大学病院 臨床検査部
0942-35-3311(内線 6060)